ONKYO®

アンプ内蔵サブウーファー

SL-307

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に
保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

- 本機の内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

● ぐらついた台の上や傾いた所、厚手のじゅうたんの上など不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードは安全な場所へ

● スピーカーコードの配線された位置によってはつまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを使用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

■ 次のような場所に置かない

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

● 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。

■ 使用上の注意

● 電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
● 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
● キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。
● 長時間音がひずんだ状態で使わないでください。スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

● 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
● ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
● 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
● 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

● 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検について

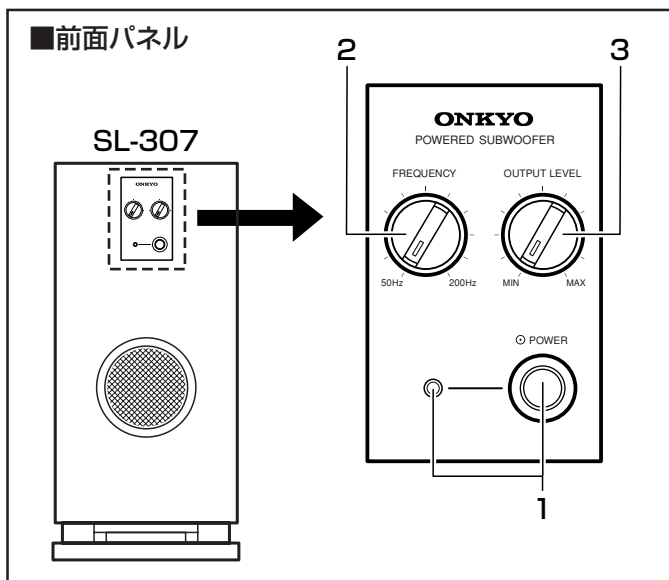
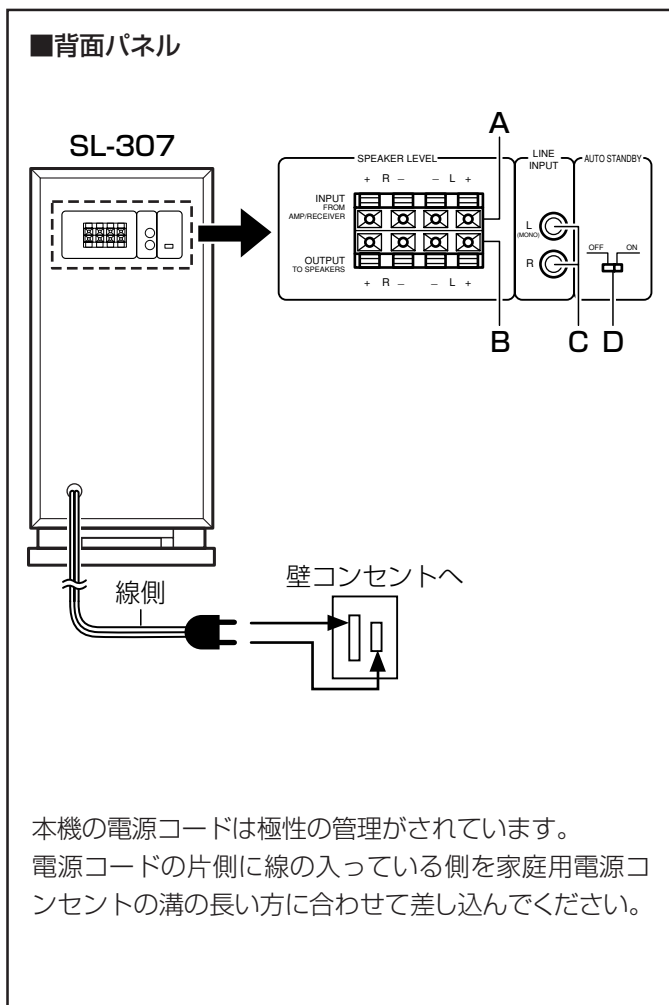
電源プラグをコンセントから抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

特長

■ 本機は超低域再生専用アンプ内蔵サブウーファーシステムです。
■ L / R ミキシング回路およびカットオフフィルターを内蔵していますので、お手持ちのシステムに本機を加えるだけで、迫力のある低音再生を実現することができます。

各部の名称と働き

1. **電源スイッチ（POWER）およびインジケーター**
   押すと電源が入り、インジケーターが点灯します。もう一度押すと電源が切れ、インジケーターも消灯します。
   赤色：スタンバイ状態、**緑色**：動作状態を示します。
2. **カットオフ周波数調整ツマミ（FREQUENCY）**
   高域をカットする周波数を変えるツマミです。組み合わせるスピーカーシステムの低域再生周波数範囲に合わせて、50Hz〜200Hzまで連続的に調整できます。
3. **音量調整ツマミ（OUTPUT LEVEL）**
   サブウーファーの再生音量を調整するツマミです。

本機の電源コードは極性の管理がされています。
電源コードの片側に線の入っている側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。

A. **スピーカーレベル入力端子(INPUT FROM AMP/RECEIVER)**
   アンプまたはレシーバーのスピーカー出力端子と接続する端子です。

B. **スピーカーレベル出力端子(OUTPUT TO SPEAKERS)**
   Aの端子に入力された音が出力されます。

C. **ローレベル入力端子（LINE INPUT）**
   アンプなどのサブウーファー出力やプリアウト出力を接続する端子です。

D. **オートスタンバイスイッチ（AUTO STANDBY）**
   オートスタンバイ機能を選択するスイッチです。
   ON(オン)：**オートスタンバイ機能が働きます。**
   数分間にわたりアンプ（またはレシーバー）から本機に一定レベルの信号が入力されない場合、本機は自動的にスタンバイ状態になります。また、スタンバイ状態のとき、アンプ（またはレシーバー）から一定レベルの入力信号が入ると自動的に電源が入ります。
   OFF(オフ)：**オートスタンバイ機能は働きません。**

ご注意

- オートスタンバイ機能は一定レベルの入力信号の有無により動作します。オートスタンバイ機能がうまく動作しない場合は、アンプの出力レベルを少し高く(または低く)してみてください。(ただしアンプ、レシーバーによっては調整できないものがあります。詳しくはお手持ちのアンプ、レシーバーに付属の取扱説明書をご覧ください。)
- 周辺機器からのノイズなどにより、オートスタンバイ機能が誤動作する場合や、深夜などにごく少音量での再生時にオートスタンバイ機能が働いてしまう時は、スイッチをOFF(オフ)にしてご使用ください。
- オートスタンバイ機能は本機の電源スイッチが入っている時のみ動作します。

接続と調整のしかた

安全のため全ての接続が終わるまで本機および他の機器の電源は切っておいてください。

■ AV アンプとの組み合わせについて

サラウンド再生機能のついたAVアンプやレシーバーと組み合わせる場合は、必ずサブウーファープリアウト端子（SUB WOOFER PREOUT）から付属の接続用ピンコードで本機に接続してください。スピーカーコードを使って本機を接続した場合、アンプやレシーバーの設定によっては、低域信号がカットされて十分な低域がでないことがあります。詳しい接続方法はお手持ちのアンプやレシーバーの取扱説明書をご覧ください。

一般的なシステムに組み合わせる場合

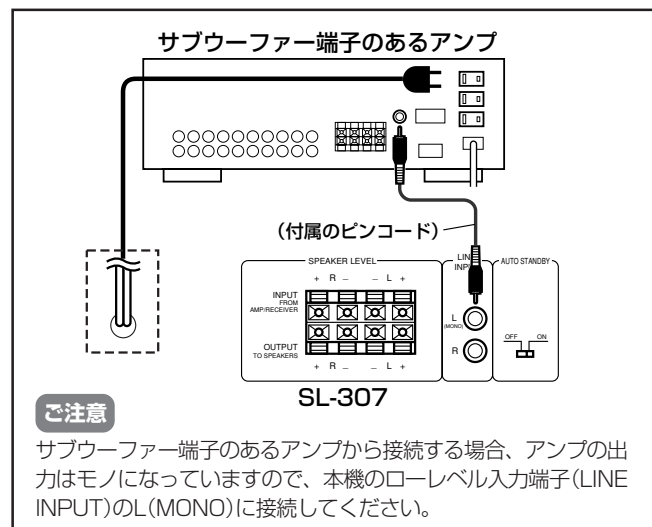
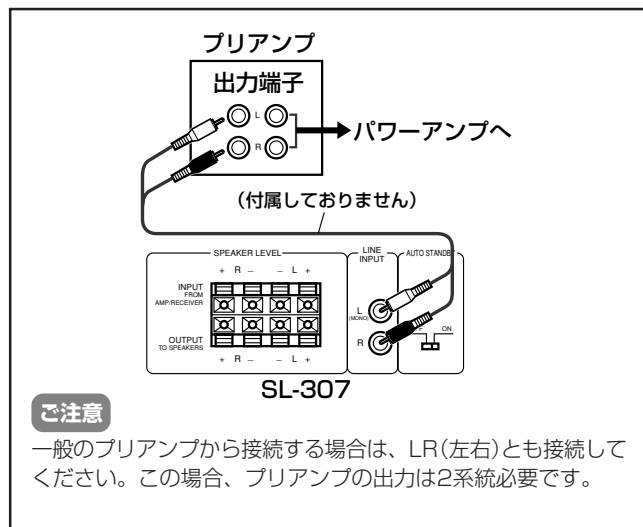
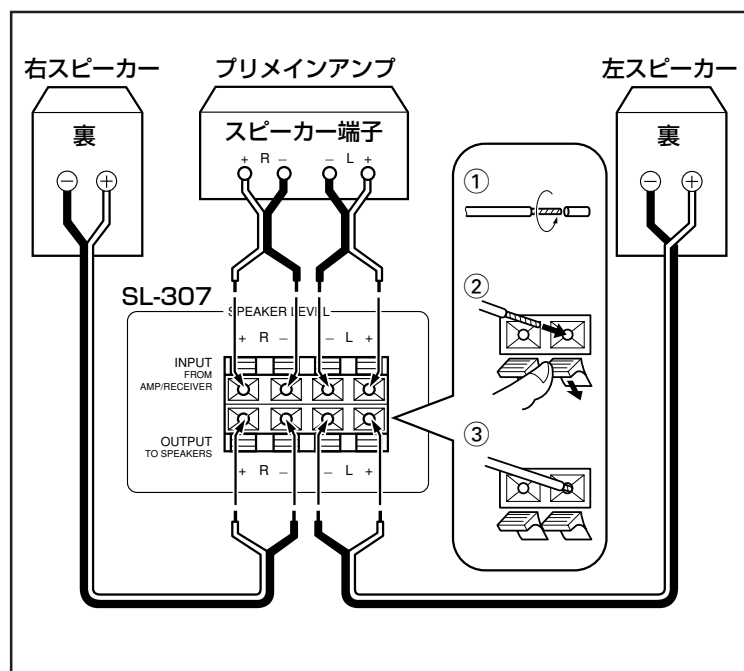
■ サブウーファー（スーパーウーファー）端子のあるアンプから接続する場合

ご注意

サブウーファー端子のあるアンプから接続する場合、アンプの出力はモノになっていますので、本機のローレベル入力端子（LINE INPUT）のL（MONO）に接続してください。

■ プリアンプから接続する場合

ご注意

一般のプリアンプから接続する場合は、LR（左右）とも接続してください。この場合、プリアンプの出力は2系統必要です。

スピーカー端子から接続する場合

1. 付属のスピーカーコードを使用して、本機のスピーカーレベル入力端子とアンプのスピーカー端子を接続します。
2. 左右のスピーカーは本機のスピーカーレベル出力端子に接続します。

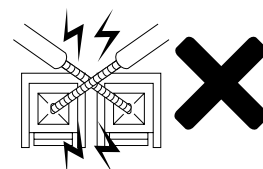
ご注意

- スピーカーコードの＋/−、L（左）R（右）を間違えないように確実に接続してください。＋/−を間違えますと低音感が損なわれます。
- 本機のスピーカー出力端子にスピーカーを接続する場合は、本機のスピーカーレベル入力端子に接続するアンプの表示より低いインピーダンスのスピーカーをつなぐと故障の原因となります。

スピーカーコードのつなぎかた

① ビニールカバーをはずしスピーカーコードのしん線部をよくよじります。

② スピーカー端子のレバーを押しながらコードの先端を奥までしっかりと差し込みます。

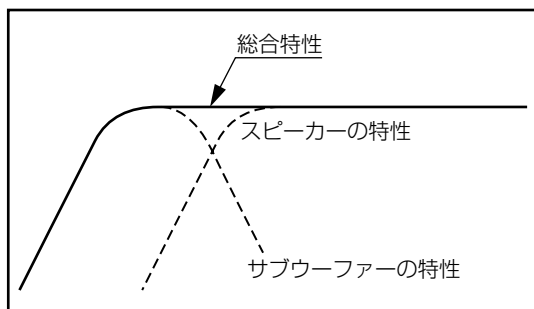
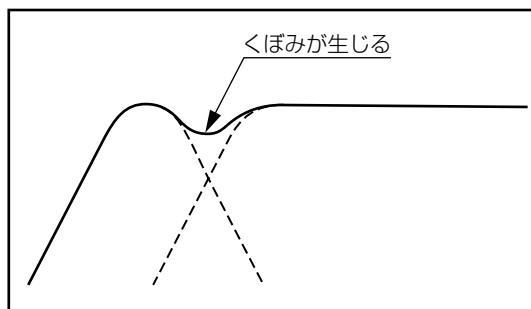
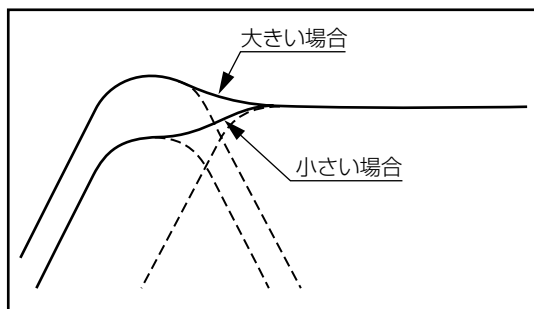
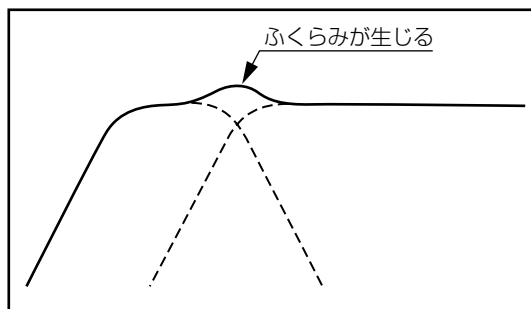
③ 指を離すとレバーが戻ります。コードを軽く引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

ご注意

- スピーカーコードの接続は、しん線部が隣の端子や金属部に触れていないかよく確認してください。ショートしたまま動作させるとアンプの故障の原因となります。
- BTL接続のアンプはご使用にならないでください。アンプ、本機とも故障の原因となります。一般のアンプはBTLではありません。詳しくはご使用になるアンプの取扱説明書をご参照ください。

（次ページへ続く）

サブウーファーの効果について

お手持ちのスピーカーにサブウーファーを付け加えることで、低音域の再生帯域を広げることができます。
ただし、サブウーファーの再生帯域、音量が適切でない場合は、下図のように総合特性に乱れを生じることがあります。

サブウーファーの再生帯域が適切な場合

サブウーファーの再生帯域がスピーカーの再生帯域と離れている場合

サブウーファーの音量が適切でない場合

サブウーファーの再生帯域がスピーカーの再生帯域に近づいている場合

■カットオフ周波数、音量調整のしかた

サブウーファーを設置する部屋の状況や組み合わせるスピーカーの種類に応じて、カットオフ周波数と音量の調整を行ってください。スピーカーレベル入力端子を使用した場合、音量調整ツマミの中心付近で一般的なスピーカーと音量バランスがとれるようになっています。また、超低音は刺激が少ないためつい音量を上げすぎる可能性があります。少し控えめぐらいがちょうど良いバランスになります。（過大入力防止の点からもおすすめします。）

本機は置く場所により効果が大きく変わります。一般的に部屋の隅に設置するのがもっとも効果的です。

ご注意

過大入力が入らないようにご注意ください。常識を越える過大入力に対しては故障の原因になりますのでご注意ください。また、接続するアンプによってはスイッチ類を切り換えるとき、ノイズの発生することがあります。このノイズはスピーカーを破損する原因にもなりますので、スイッチ類を操作するときは、ボリュームを一旦絞ってから切り換えるようにしてください。

♪音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にしましょう。
特に静かな夜間には音量を下げてききましょう。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

取り扱い上の注意

■設置について

- 本機のキャビネットは木工製品ですので、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房機具の近く、浴室や台所の近くなど、湿気の多いところは避けてください。
- 振動や傾斜のないしっかりとしたところに置いてください。
- 本機には滑り止めスペーサーが4個付属しています。フローリングの部屋に設置する場合は、このスペーサーを底面4隅に張り付けますとキズを防止するとともに、安定して置くことができます。ただし、設置する場所によりスペーサーの跡が残ることがありますのでご注意ください。
- 本機は立てた状態で使用されるよう設計されていますので、寝かせたり、傾けたりしないでください。
- レコードプレーヤーやCDプレーヤーのそばで本機を使用したとき、ハウリングや音飛び現象が起こることがあります。そのときはプレーヤーと本機の距離を離すか、本機の音量を下げてお使いください。

■使用上のご注意

- 本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故の恐れがありますので、ご注意ください。
  1. オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
  2. ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音（抜き差し時は必ずアンプの電源を切ってから行ってください。）
  3. マイク使用時のハウリング
- アンプのトーンコントロールやグラフィックイコライザー等で低域を極端にブースト（増強）したり、低域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号音以外に異常な音が発生する場合があります。

  これは、スピーカーユニットの限界を超えた時に発生する「ばた付き」が起こっているためで、故障ではありません。しかし、このような状態でご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので、音量を下げてご使用ください。

■防磁設計について

本機のスピーカーユニットは、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）（旧（社）日本電子機械工業会（EIAJ））の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、カラーテレビなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置のしかたによっては色ムラが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合は、本機をさらにテレビから離してください。また近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には本機との相互作用により、テレビに色ムラが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

■セットのお手入れについて

キャビネットは、時々シリコンクロスまたは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤を薄めた液に、柔らかい布を浸し、固くしぼって汚れをふきとったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものなどでふきますと傷がついたり、文字が消えたり、変色したりすることがありますから、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
サランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

故障？と思ったら

本機が正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処置をしても直らないときは、電源プラグをコンセントから抜いて、「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（SL-307）」「故障状況」をできるだけ詳しくお買い上げいただいたお店、または当社サービステーションまでご連絡ください。

症　　状	原　　因	処　　置
電源が入らない。	・電源プラグの差し込みが不完全。	・電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
音が出ない。	・音量調整ツマミが最小になっている。 ・接続用ピンコードがはずれている。 ・入力スピーカーコードの接続が不完全。 ・アンプ(レシーバー)側のスピーカー設定が「サブウーファー無し」になっている。 ・入力信号が小さすぎて、スタンバイ状態になっている。	・適当な音量でご使用ください。 ・接続用ピンコードを正しく接続してください。 ・スピーカーコードを正しく接続してください。 ・アンプ(レシーバー)側の設定を確認してください。 ・アンプ(レシーバー)側の出力レベルを少し高くしてください。(4ページ参照) ・オートスタンバイスイッチ(AUTO STANDBY)をオフ(OFF)にしてください。
音が小さい。	・スピーカーコードの接続が間違っている。 ・ソースに低音が入っていない。	・スピーカーコードを正しく接続してください。 ・低音の入っているソースを再生してください。
ブーンというハム音が入る。	・ピンコードの差し込みが不完全。 ・外部のリーケージフラックス(テレビ等からの誘導雑音)	・ピンコードをしっかり差し込んでください。 ・雑音源より離してください。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(SL-307)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 年　月　日
ご購入店名：
Tel.　(　)
メモ：

仕様

形式	アンプ内蔵バスレフ型
用途	超低域再生専用
定格周波数範囲	30Hz～200Hz
クロスオーバー周波数	50Hz～200Hz(可変)
実用最大出力	75W(5Ω・EIAJ)
入力インピーダンス	スピーカー入力：4.7kΩ ライン入力：12kΩ
入力感度	スピーカー入力：2V ライン入力：45mV
使用スピーカー	20cmウーファー
電源	AC100V(50/60Hz)
消費電力	53W
外形寸法(W×H×D)	235×496×429mm
質量	13.5kg
付属品	スピーカーコード(2) 接続用ピンコード(1) スペーサー(4) オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内(1) 取扱説明書(本書1) 保証書(1)
その他	オートスタンバイ：ON/OFF(キャンセルスイッチ付き) 防磁対応(EIAJ)

※定格および外観は、性能向上のため予告なしに変更することがあります。

本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはオンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
お客様相談窓口　☎072(831)8111

http://www.onkyo.co.jp/

SN 29343157

G0105-1